

策定年月	令和5年4月
見直し年月	

麦・大豆国産化プラン

産地名：上小阿仁産地

(作成主体：上小阿仁村農業再生協議会)

1. 麦・大豆生産の現状と課題及び課題解決に向けた取組方針

○ 現状及び課題

主食用米の国内需要が減少する中、水田活用の直接支払交付金等を活用して大豆への転換並びに生産振興を図ってきたが、単収が県平均よりも低く、大豆の生産量は伸び悩んでいる。

- ・大豆作付ほ場の半数が小区画ほ場（10a未満）であり、生産性及び作業性が低い
- ・雪解けが遅いため春作業期間が短く、適期作業が困難
- ・ほ場の不陸による降雨後の停滞水による湿害

○ 課題解決に向けた取組内容

- 1 小区画ほ場においても十分な生産性が確保できるよう、排水対策や土づくりを実施するとともに、小区画ほ場に適応した機械の導入により作業性の向上を図る。
 - 基本的な排水対策、栽培技術の励行
 - 管理作業車による播種や中耕培土の実施
- 2 ほ場の均平化により排水を良好にするとともに、作業性を向上させ、苗立ちおよび生育を安定化させる。
 - レーザーレベラーの導入により、ほ場の均平化を図り、降雨後の停滞水による湿害を軽減させる。
- 3 団地化の推進により、作業効率を高め、適期作業による安定生産を実現する。
 - 農地の集積状況を踏まえ、大豆団地形成のための検討会の開催
 - 作業を整理し、効率的な作業体系を構築する。
- 4 生産者の栽培管理技術の向上を図る。
 - 生産者の技術向上に向けた栽培技術講習会の開催
 - 生産性の高い地域への視察を行うなど、他地域の生産者との積極的な情報交換

○ 今後の生産拡大に向けた方針

これらの課題解決と実需者が求める産地を目指すため、本プランを策定し、地域の農地の受け皿となる中核的な法人を中心に、生産性の高い産地づくりに向けた取組を推進する。

※ 麦・大豆生産における課題（湿害対策、適期播種、土づくり、連作障害対策等の必要性等）を具体的に記載すること。

※ 課題解決に向けて取り組む内容及び今後の生産拡大に向けた方針を具体的に記載すること。

2. 産地と実需者との連携方針

R4現状

上小阿仁村地域
「リュウホウ」
生産量 6.8 t



(株) 芳コーポレーション
出荷量 6.8 t

☆ 蒸煮した際の色調 良
→ 味噌加工に適性



実需者 A
6.8 t

☆ 味噌製造業者

R7目標

上小阿仁村地域
「リュウホウ」
生産量 19.1 t
☆生産拡大



(株) 芳コーポレーション
出荷量 18 t
☆取扱量増加



実需者 A
18 t
☆取扱量増加

実需者 B
0.3 t

実需者 C
0.8 t

新規販路開拓

地域内における加工、販売に向けた取り組みを強化するため、地元道の駅や、味噌の製造を手がける地元団体とも連携する。

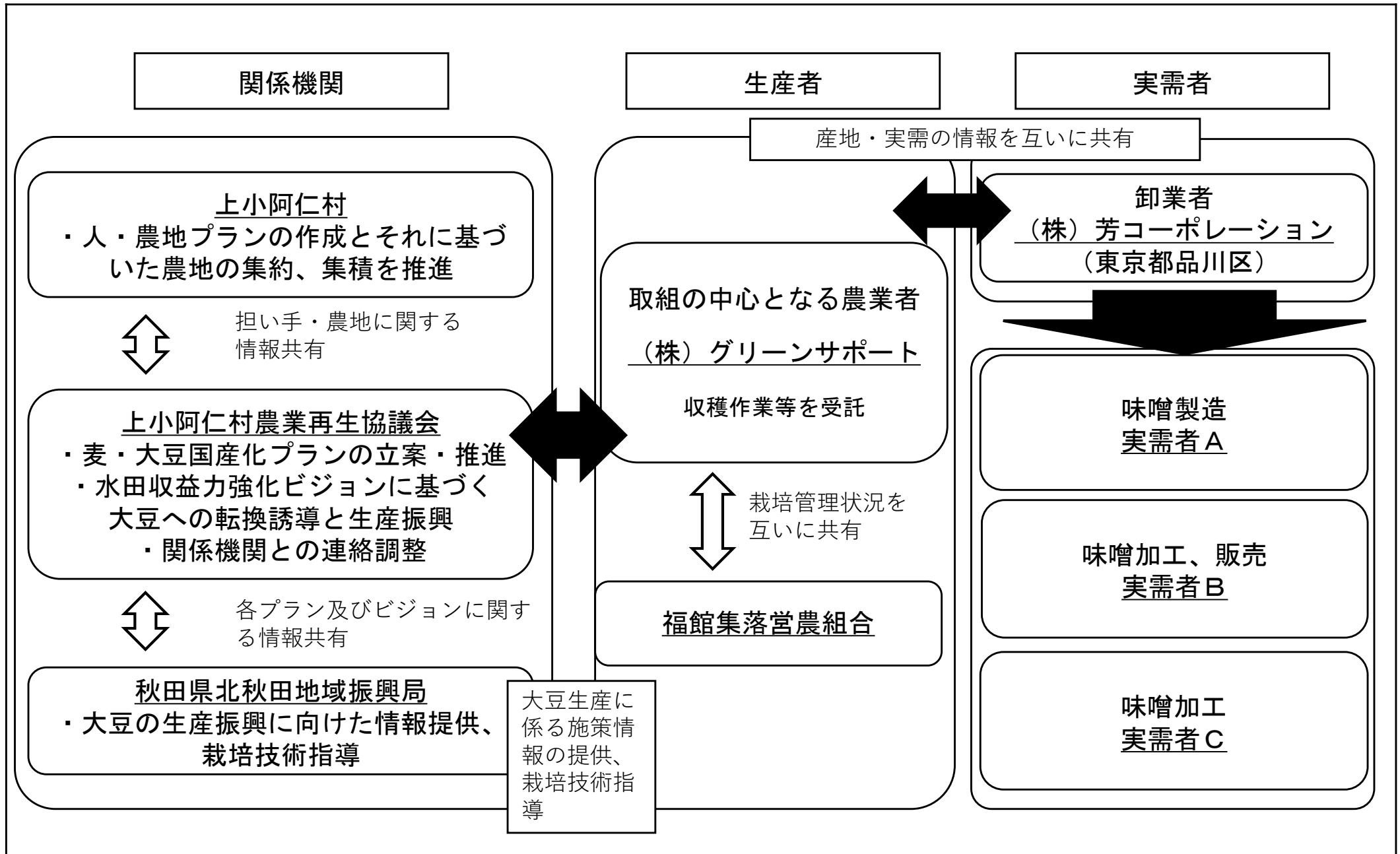
※ 産地と実需者については具体的な名称を記載すること。

※ 大豆の実需者は、大豆を原料とした加工品等の製造を業とする者、大豆の販売を業とする者及びこれらの者が組織する法人その他の団体とする。

なお、販売を業とする者を実需者とする場合は、その者が販売する先(最終実需者)について、代表的な者の名称を記載すること。

※ 産地と実需者それぞれの国産麦・大豆取扱量の現状とおおむねの目標値を記載すること。

3. 麦・大豆の国産化に向けた推進体制及び各関係者の役割



※ 産地と実需者との連携について、図等を用いて明示すること。

※ 取組の中心となる農業者等を必ず位置付けること。